



ふちばら文庫

ふい えら ち! ♡

Fella-Fetish

The author

夜空野ねこ

Illustration

にの子

Parthenon

頭を押さえられたまま、桃華がさらに舌をうごめかせていく。裏筋を舌先で乱暴に引つ搔かれて、鋭い快感が身体中を駆け巡っていった。「びちゃっ……ちゅ、じゅぶ……んっ、んく……！ ふおもふん……もつと、気持ちよくなつて……」

「んっ……もも、か……」
このままされるがままだったら出てしまう。でも、もつと桃華の口内の気持ちよさを味わっていたい。

桃華の頭に乗せていた手を動かして、その手を、彼女の制服の襟元からゆっくりと差し入れていく。

「っあ！ トモくん、そこは……んんっ……」
イチモツから舌を離し、桃華が驚きの声をあげる。それにかまうことなく、さらに手を動かして制服の中に侵入させていく。

ブラジャーに包まれたままの桃華のおっぱいに、指が当たる。大して力を入れたつもりもないのに、指がその柔らかな膨らみに沈み込んでいった。

「んっ、んん……！ あんっ……ああ……」

小さく首を振って、可愛らしく身悶える桃華。その様子を見つめながら、小さな声で告げてあげた。

「ほら、桃華……手と舌、止まってるよ。ちゃんと続けて……」

「ん……で、でも……！ トモくんが、こんなことするから……あっ……ううんっ……」

おっぱいを、少し強めに揉みしだく。ブラジャーの手触りと肌のしっとりした感触が、とても新鮮に思えた。

「すぐく、柔らかいな……それに、やつぱり大きいし……」

「やつ……そんなこと、言わないで……ううん……！」

顔を真っ赤にして、恥じらいを見せる。それを無視して、さらに柔らかいおっぱいを揉みしだいて楽しんだ。

「そんなこと言われたってさ……やつぱり、気になるよ。背はちっちゃいのに、胸はこんなに大きくてアンバランスだし……オレの友達だって、たまに桃華のこと聞いてくるんだぜ……？ 今度紹介してくれてやつが……結構、いるんだぞ」

「ええ……？ 紹介、って……あん……っ！」



「もちろん、断つておいたけど……さ。桃華のこと、こうできるのは……オレだけ、だからさ」

「あう……つあ、と、トモくん………！　ひあ、ああ………！」

首を小さく振って、喘ぐ桃華。

そうしながらも、イチモツに触れさせた手を、ゆつくりと動かしていった。

「わたしが、気持ちよくなったら、ダメ……わたしが、トモくんを気持ちよくさせてあげらんだから……んん……んっ………！」

「うっ……うう………」

すべすべした手のひらが、イチモツの先っぽを包み込む。透明な先走りが、亀頭全体に塗りつけられていった。

舌とはまた違った手のひらの感触に、腰が引けてしまうぐらい感じてしまう。溢れた我慢汁が、ぐちゅぐちゅとエッチな音を立てて、ますますたまらない気持ちになつてしまう。

「くあ………！　も、桃華………そろそろ、啜えてくれるか………？」

ブラジャーを押上げて固くなり始めていた乳首を摘みながら、そうお願いする。

「うん………っ！　う、うん………」

身体を震わせて悶えながらも、頷いてくれる桃華。

イチモツを改めて握り直してから、口を大きく開けて、ゆつくりと顔を近づけていった。
「うむっ………うんっ………じゅぷ、じゅ………」

「うあ………ふっ、くう………！」

熱い口内に、イチモツが飲み込まれていく。手のひらとはまた違った熱さに、頭の中が真っ白に染め上げられていった。

火傷してしまうんじゃないかと、そう錯覚してしまうほどだ。荒い呼吸を繰り返しながら、桃華から与えられる刺激に身体を預けていく。

「うっん………びちゅ、ちゅば………んぐ、むぐ………」

亀頭を咥え込んだまま、ゆつくりと首を上下に動かして、スロートする。

頬肉に先っぽが擦られて、なんともいえないむずがゆい刺激を感じた。

そして、唇は細められていて、カリ首の辺りをきつく締め付けてくる。唇が行ったりきたりするたびに、目の前に火花が散っていった。

「桃華………っ！　舌も、動かして………もっ………そ、そう………それ………先っぽをつつくように………んん………っ！」

「んっ………んん………じゅぷ、ちろちろ………ふお、ふおう………だよね………？」

「んっ………そう、だよ桃華………先っぽにある小さな穴に、舌を差し込むような感じで………うああ………っ！」

「ちゅむ……っんく……うん……っ！」

言葉に従って、口の中で舌が器用に動いていく。先っぽをつんつんと、小刻みに突きまわしてきた。

ぐにぐにと形を変えながら、舌が尿道に差し入れられる。痛みにも似た感覚を覚えて、腰がぐくぐくと揺れてしまう。

「桃華……っ！ 桃華あ……っ！」

「うぶっ……っ！」

思わず、腰を突き出してしまった。

口のさらに奥へ、イチモツが潜り込んでいった。喉の奥のごつごつとした壁が、イチモツの先っぽを出迎える。

舌や口内の柔らかな感触とは反対の刺激が、ものすごく心地いい。おっぱいを揉むのも忘れて、友樹は一心に腰を振り続けた。

「桃華……桃華……っ！」

「あぶっ、うぶう……じゅぶっ、じゅちゅっ……ぶあっ……っ！」

乱暴な動きを拒絶することなく、桃華は口からイチモツを離すまいと、きつく唇をすばめた。

「桃華……そろそろ……っ！」

声を震わせて、そろそろ限界に近いことを伝える。ここが観覧車の中だということは、もうすっかり頭の中から消えていた。

今どのあたりにいるのか、あとどれくらいで観覧車が終わるのか……そんなことも考えられなくなっている。

（もっ……もっ……気持ちよくなりたい……っ！）

頭の中にあるのは、それだけだった。今までの失敗が、ちよつとした鬱憤を作っていたのかもしれない。

（今度こそ……イク……っ！）

「ふああ……っ……ふおも、ふん……ふおもふん……っ！」

苦しうに顔をしかめる桃華の表情を見つめながら、限界を迎える。

「桃華……っ！」

「んぐっ……っ！」

頭を押さえて、こちらへ引き寄せる。それにタイミングを合わせるように、自分から腰を突き出していった。

今までにないほどに深い場所に、イチモツがもぐりこんでいく。その刺激が、一気に限界まで押し上げる。

「うあ……っ！」

ドビュルルル！ ビュクッ、ビュルッ！ ドビュッ、ピュッ！
腰が震える。湧き上がってきた愉悦が、一気に桃華の喉に流れ込んだ。

「んぶ……っ！」

桃華は呻きながらも、口できゅっといちモツを締め付ける。その動きで、尿道に残っていた残りの精液が、無理やり抜き出されていった。

「うう……っ」

解放感に身を任せ、すべてを幼なじみの口の中に吐き出していく。最後の一滴まで出し尽くしてから、頭を押さえつけていた手を離した。

観覧車の座席に、力なくもたれる。荒い呼吸を整えながら、視線を向けた。

「だ、大丈夫か……？」

「ん……んん……」

桃華は口元を両手で押さえながら、喉を何度も動かしていたが、やがてゆっくりと手を離していった。



ぶちばら文庫
ふえら・ふえちっ！

2011年 8月30日 初版第1刷 発行

■著 者 夜空野ねこ
■イラスト にの子
■原 作 Parthenon

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを行うことは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©NEKO YOZORANO ©Parthenon

Printed in Japan 2011

PP024

催眠シリーズ第3弾!

ぶちばら文庫22

春風菜 著

水原優・蜜キング 画

Parthenon 原作

定価 670円(税込)

魔眼カメラに心を奪われ、
言いなりに自慰する美処女の記録…。

好評発売中

写し撮れば、
少女を支配する!

Temptation
NAKED

デニブレーション
ネイキッド

ぷちぱら文庫は ライター&イラストレーターを募集中です!

「ぷちぱら文庫」シリーズを盛り上げる、新たな作家を募集いたします。「ぷちぱら文庫」は、ゲームノベライズだけでなく、オリジナル創作による美少女小説も刊行予定です。

応募規定は、それぞれ以下ようになります。

皆様のご応募をお待ちしております!

1. 募集内容

「ぷちぱら文庫」シリーズでは、美少女ゲームやライトノベルを好む読者層へ向けた作品作りを目指しています。ご応募いただく場合も、ヒロインの個性や魅力が伝わるようなもの、シチュエーションへのこだわりが感じられるものなど、はっきりしたテーマのある作品をお願いいたします。題材はとくに限定していません。発表済か、未発表作品かも問いません。

2. 送付方法

小説の場合は、テキストデータをメールでご応募ください。コミックやイラストは、原稿用紙をお送りいただいても、データをお送りいただいても結構です。データが5MB以上の場合は、ファイル転送サービスなどをご利用ください。コミックには枚数の規定はありません。小説は1ページを17行×40文字として、50ページ以上の作品をお送りください。

3. 選考結果などについて

メールでご応募いただいた場合は、着信のご連絡は必ず行っています。選考は随時行っており、締め切りはとくにございません。選考終了後、採用の方へのみ別途お返事をしております。通常はお返事までに、2週間～1か月ほどお時間がかかります。

4. 作品の送付先

ご郵送の場合は下記住所までお送りください。メールでのご応募は以下のアドレスで受け付けております。どちらの場合も必ず「お名前、年齢、ご職業、ご住所、電話番号」を書いた紙を同封するか、明記してください。
メールの宛先: desk@parabook.co.jp

〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-19 ワールドビル202
株式会社パラダイム 「ぷちぱら文庫作品応募」係

※ご応募の際の個人情報、選考結果のご連絡にのみ使用いたします。

作品のご返却を希望の場合は、宛名を書いた返信用封筒と切手を同封してください。